

保 育 か な が わ

発行所
横浜市神奈川区沢渡
4の2
神奈川県保育会
発行人
鈴木 萬 吏
題字
故 内山岩太郎 筆

当 面 する 諸 問 題 について

神奈川県保育会々長 鈴木 萬 吏



休眠状態にあった本紙が春に先
がけて眠りをさました。速報
性が特に求められる昨今の状況下
では、迅速且つ確実なニュースは
県保育会の委員の先生方への関係
資料等の急送とそれを受けての各
会員の先生方への伝達が中心とな
っておりましたが、他方本会の広
報活動としての会報の持つ意味も
大きく今後は居眠りすることなく
定期的な発刊体制を整えるべく努
力を傾けてまいりますのでよろし
くご支援ご協力下さい。

さて、近頃子ども達に欠けて
いるものとして、一、心の教育。

二、自然とのふれあい。三、基本
的生活習慣。四、勤労体験学習。
右の四点を指摘するのは高石邦男
文部事務次官で、更に遊びの重視
をも主張されています。我々保育
所側で実践していること、保育の
在り方の正しきの例証です。又保
育所の必要性を確言された民族派
の高石次官との座談会は昨年十月
号の現代保育に載せられています。
臨教審の幼保問題についての見
解は大旨幼保二化の考え方を理解
していただけるものと期待し予測
していたのですが、一月二十三日
発表された審議経過の概要（その
四）ではご承知の通りだったので
すが、委員の中には異論もあり、
政党の多くは幼保一元論でもあり、
今後の第三次答申や夏には出され
る最終答申まではまだまだ楽観は
許されません。事実、概要その四

次は団体委任事務化の問題では
県所管の市町村全体の問題として
県保育会に対策委員会を設置し、
一月二十日県保育会委員会と対策
委員会の合同委員会を開催し、神
奈川県当局及び民間保育園協会事
務局長にもご出席いただき状況説
明と対応策について協議しました。
厳しい社会状況の中では今後益
々、質の高い保育への要請と低廉
であることも求められて来ます。
一、処遇の公平化。二、処遇の個
別化。三、効率化。四、施設の個
性化。五、施設の多様化。
以上の五原則が求められるのです。

生き生きとした子どもを求めて

研究委員 川 口 仁 斉

昨年三月保育会の中に研究委員
会が組織され「子どもと生活指導」
のテーマのもとに保育問題について
の研究討議が重ねられて来ました。

研究内容は、すでに県の保育事
業大会を初めとし全国保育研究大
会でも発表したましたが、本紙
をかりてその一部を紹介させてい
ただきます。なお、研究の発表に
おいてアンケート調査を実施した
際には、お忙しい中にもかかわらず、
ご協力いただきました園長先
生方に対し紙上を借りて厚く御礼
申し上げます。

さて、いま子どもたちを取りま
く環境を考えて見ると、多様化し
た母親の就労意識、子育てや教育
意識の変化、あるいは核家族化の
進行による育児不安の増加、両親
の離婚、母親放棄、などと多くの
問題が提起されています。

このような生活環境の中で最近

の保育園の子どもたちは、体格は
良くなったにもかかわらず「朝か
らあくび・食欲がない・指示され
ないと動かない・表情がない」「虫
歯・アレルギー・偏食」など身体

に「おかしいな」と思われる問題
徴候が見られるようになってしま
した。そこで、研究を始めるにあ
たって「おかしいな」と思われる
あるいは「気になる」子どもたち
がはたしてどのような、あるいは
どれくらいの数で存在するのか、
その実態を把握するためにアンケ
ート調査を実施しました。

アンケート調査の全てを紹介す
ることはできませんが、今回は10
項目目の設問と、その回答及びそ
の分類結果と「おかしいな」と思
われる状況を呈している原因をグ
ラフ化したものを紹介し、これら
についての研究討議の内容を報告
したいと考えます。

*第10項目のアンケートと集計結果 (該当人員の多い項目順に列挙した)

最近の園児を見ていて「おかしいな」と思われる状態について、次の項目にご記入下さい。

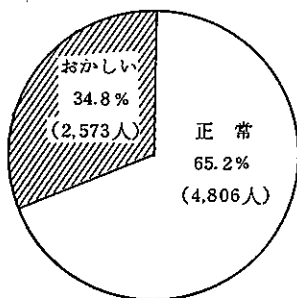
(調査対象 85園 7,379人)

No.	項 目	該当人員	No.	項 目	該当人員
1	虫歯の多い子	708	15	つまづいた時などときに手が出ないで頭や顔を けがする子	210
2	アトピー性皮膚炎やじんましん等、アレルギー性 疾患の子	604	16	悪いことをして保育に注意されても知らん顔で聞 こうとしない子	206
3	指吸いの子、爪かみの子	548	17	ソジャク力が弱く食物をのみこんでしまう子	206
4	朝からあくびをする子	471	18	子どもの身体にさわると体温が低い(36度以下) の子	174
5	偏食の子	430	19	ちょっとした出っばりにもよくつまづいて転ぶ子	179
6	いすに座っている時背もたれによりかかったり、 ほおづえをしてグニャットとする子	392	20	名前をよばれてすぐに返事の出来ない子	169
7	親や保育に指示されないと動かない子	312	21	友達が食べていても欲しがらず知らん顔して食欲 のない子	155
8	自分の言い分ばかり言って保育や友達の話の間こ うとしない子	311	22	耳の病気の子	160
9	保育時間中目がトロンとしている子	271	23	鼻の病気の子	157
10	一つのことに集中して活動することのできない子	249	24	自由時間のときなど物事に関心を示さずボーとし ている子	145
11	すぐに「疲れた」という子	246	25	肥満の子、または肥満気味の子	154
12	欲求が通らないときすぐに暴力に訴える子	246	26	まっすぐの姿勢をした時首が傾いていたり、背す じが曲ったりねじれている子	129
13	ぜんそくの子	241	27	笑顔のない子	90
14	鼻血の出やすい子	219	28	興味関心を示さず意欲なく表情のない子	86

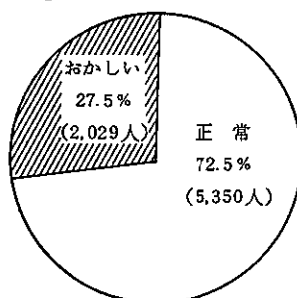
№	項 目	該 当 人 員	№	項 目	該 当 人 員
29	登園するなりごろんところがっている子	85	36	ブランコや棒のぼりの最中に、不意に手をはなして落ちる子	56
30	目の病気の子	87	37	頭痛を訴える子	45
31	土ふまの形成が遅れているためすぐ疲れて歩けなくなる子	78	38	しゃがんでおれず、すぐうしろに倒れる子	44
32	5歳児になって集団の中に入らず、自分の好きな行動をする子	69	39	はいはいをほとんどしないで歩きはじめる	37
33	4, 5歳になっておもらしをする子	71	40	夜ねている時、ヒザやヒジや足首等の関節が痛くてねむれない子	28
34	ちょっとしたことで骨折する子(筋、骨、脱臼も含む)	62	41	貧血の子	23
35	歯のはえる時期が早い子	55			

「おかしいな」と思われる子どもの状態を分類してみると(分数方法は共立出版生活リズムの中から準用した)

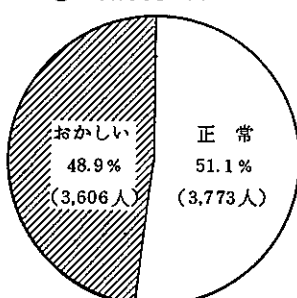
① 情緒、行動面



② 神経性習癖の面



③ 身体反応の面



「おかしいな」と見える状態の、その原因と考えられるもの

(%)

① 情緒、行動の面	愛情不足	19.3	欲求	3.4	生活リズム	20.1	過保護	13	過干渉	24	生活習慣	4.9	運動不足	8.3	親の姿	4.9
② 神経性習癖の面	愛情不足	37.4			欲求	5.9			生活リズムの乱れ	34.3			過保護	22.4		
③ 身体反応の面	愛情不足	17.6	欲求	5.5	生活リズム	19.7	過保護	7.5	食事生活習慣	16.7	運動不足	13.4	D.r.			

無作為に抽出した保育園を対象としてのアンケート調査であり、サンプル数もそう多くありませんが、県下ではこの問題に関しての調査は初めてということで、それなりに価値のあるものと考えられます。

さて、このアンケートの結果にみられるとおり、かなりの子どもたちが「おかしいな」と思われる身心状況を呈していることを知ることができました。

設問の方法から一人の子どもが複数の項目に重なって数えられていることもあって考えられますが、いずれにしてもその数の多さを目を向けるといふよりは驚かすにはいられないことと思います。

「おかしいな」と思われる子どもたちの全体像を把握しやすくするためその分類化をしてみました。かなりの子どもたちが「おかしいな」と、とらえられていることが一層よくわかります。中でも身体反応の面でおかしいなと思わ

れる子どもの多いことは注目され
ます。

このような問題をかかえる子どもたちのため保育の現場ではどのように対処したらよいか、どのような指導方法が望ましいのか、その一端を見出していくために、「おかしいな」と思われる状況を呈している原因を探ってみました。というのも「おかしいな」と思われる状態になってしまった原因を除き去ってあげれば、生き生きとし本来の子どもらしい姿を取戻すことができるであろうと考えたからであり、そこに指導の一端を見出すことが出来るように思えたからです。先に示した帯グラフが各分類ごとにその原因と考えられることを整理したものです。

単一の原因により一つの結果というように単純ではなく、生活リズムの乱れ、愛情不足、過保護、過干渉、運動不足などが複合的で共通なものとして考えられるわけですが、研究委員会では特に生活

リズムの乱れと愛情不足ということに注目してみました。

現代の科学は目を見張るように進歩し、社会生活は加速度的なスピードで変化しつつあります。これにともない人々の価値観やかつての伝統あるいは生活様式や習慣も大きく変化しつつあります。生活様式の変化は、当然そこで生活する人々の生活リズムの変化へと結びつきます。

子どもの生活リズムは、まさに大人の生活の反映といわれ、現代の生活様式のもとで、子どもの生活リズムは乱れ、そのうえに親の愛情不足あるいは反対に過干渉、過保護が加わり、それでも子どもたちは何とか親のリズムに合せようととし、どうか平衡を保とうと必死になっていきます。「おかしいな」と思われる状態は、まさに子どもたちが大人や親たちに訴えている無言のサインではないでしょうか。私たち保育者は、保護者とともにこれらのサインを真正面か

ら受けとめ暖かく受容して身心ともに健全な子どもの育成に努力しなければならぬと思います。

アンケート調査から以上のようなまとめへと到達したわけですが、保育の現場における実践はどうしたらよいか、研究委員会では時間的な制約もあり具体的な方法について研究討議することができませんでした。保育方針やカリキュラムを設定するにあたっての具体的な方法等については、今後の課題として継続的な研究を積上げていかなければならないとの意見で一致しました。ここでは、生き生きとした子どもの姿を求めてとして、具体的な方法の基本となるようなことがらについて各委員の方から出た意見を箇条的に列記し若干の説明を付すにとどめます。

1、子どもの姿を24時間の生活リズムの中で捕える必要性
子どもの活動の姿を捕えるにあ

たり、その瞬間だけあるいは現象の結果のみにとらわれず、一日24時間の一部として、あるいは成長の過程の一部として捕えることが必要である。子どもの一日24時間の様子がどうであるかを知ることが、生活リズムの乱れを正し、いまの「おかしいな」という状態を正常な姿に引戻すうえで重要なこととあります。

2、深めたい人間関係

① 親と子の愛情

② 保育者と子の愛情

調査の結果のとおり愛情不足ということが原因としての上位を占めています。大人や親たちは勿論保育者は、自分の都合でのみ行動することなく子どもの立場に立つて考え行動し、愛情豊かな中で育つ子どもとしたい。

3、保育の視点

① 科学的

② 経験的

③ 価値的

保育を進めていく上で、保育者

は科学的な視点に立たなければならぬ。特に科学的に観察する目を持つことができるように保育者としての知識を高めていくことが必要である。また、科学的な観察眼や知識を持つと同時に、それらを日頃の保育活動が十分に活用できるように経験豊富で保護者から信頼される保育者になりたい。

4、生き生きとした保育者

子どもの文化は親の模倣にはじまるといわれます。親や保育園の保育者を見て成長する子どものことを考えると、保育者自身も目標と希望をもち生き生きとしていなければならぬでしょう。そのためには、私たち一人一人の努力は勿論のこと、職場全体の環境や人間関係をいつも良い方向に向かうようお互いの努力が必要でありま

す。最後に、私たち保育者は「豊かな心を持った人として形成してゆく保育」に使命感を持ってあた

らねばならないとの委員会での結論を提示しておわりとします。

アンケート調査結果（抜すい）

○園ではどのような当番がありますか。

- (1) 給食の準備 7 4
- (2) 給食のあとかたづけ 7 1
- (3) 動植物の世話 4 2
- (4) テーブルふき 7 5
- (5) そうじの手伝い 5 2
- (6) ふとんひき 5 3
- (7) その他 2 4

○排せつの様子は見に行きますか。

- (1) 見に行く 5 6
- (2) 時々見に行く 2 2
- (3) 呼びに来たら行く 6
- (4) 行かない 5
- NA 3

○保護者とのかかわりの集まり（集会）がありますか。

- (1) ある 7 0 (2) ない 1 0
- NA 5

○保護者から相談を受けたことがありますか。

- (1) ある 7 0 (2) ない 1 0
- NA 5

あるとお答えの方、どのようなことですか。具体的にお書き下さい。

<相談内容>

- 1. 偏食が多い子の給食について
- 2. 生活習慣について（排泄、偏食等）
- 3. 夜尿について
- 4. 離乳について

5. 指しゃぶりについて

- 6. 子どもの叱り方、ほめ方について
- 7. 反抗期の対応の仕方について
- 8. 食欲について
- 9. 子育てについて、父親の協力不足について
- 10. 身体的欠陥をもつ子どもの対応について
- 11. 妹が生まれて情緒面で不安定になった。
- 12. いじめ、友達関係について
- 13. 子供の精神的発達について
- 14. ことばの遅れについて
- 15. 障害児の生活指導と就学について
- 16. 登園拒否について
- 17. 左利きについて
- 18. 家庭内の不和（夫婦げんか、離婚問題等）
- 19. 動作の遅いことについて
- 20. 幼児語が目立って多い
- 21. アトピー性の子の食事について
- 22. 母親に暴力をふるう子の対応について
- 23. 栄養、食事について（離乳食等）
- 24. 子どもの発達について
- 25. 言葉の遅れや多動的な行動等による異状の相談

- 26. 寝ぼける
- 27. どもる
- 28. 父親の暴力となまけについて
- 29. 親の子どもへの接し方
- 30. 言葉使いが乱暴（女子）
- 31. 頭痛の訴えの多い子を持つ親の相談

「あすの保育を考える」 第20回神奈川県保育事業大会開催

昭和61年5月17日(土) 於 神奈川県社会福祉会館

風薫る五月、第二十回神奈川県保育事業大会が神奈川県社会福祉会館において盛大に開催された。

参加者数四百五十余名、式典では保育事業永年勤続者六十六名に保育会長の表彰が行なわれ、そのあと神奈川県議会議長、石渡清元氏、同厚生常任委員長、杉山喜三男氏を始め多数の来賓祝辞があり、保育者に期待する声があひしひと感じられ、その使命の重さを痛感した。

昼食の合い間に県保育会、県保母会総会を開催、昭和六十年年度決算並びに事業実施報告、昭和六十一年度予算、事業計画を事務局より提案、満場一致賛成可決した。

午後に入り園長部会、保母部会とにそれぞれ分れ研究討議を行なった。

園長部会では助言者に武蔵野短

大教授、村田保太郎氏を迎え、「子どもと生活指導」のテーマで岩愛児園副園長、川口仁斉氏の生活実態調査をふまえての研究発表があり、加えて助言者からの指導助言により、一層理解すると共に保育の難しさを感じた。

保母部会では「あそびのなかで育つからだ」等保母の立場からの研究発表があり、熱気あふれる討議がなされた。部会終了後、全体会議に入り、それぞれ研究部会の結果報告があった。

保育ニーズの多様化に伴い、ますます保育所のあり方が問われているとき、我々保育者が一堂に会し、日頃保育にかかわっているものが諸問題を討議し、あすへの保育に向って前進するようこの大会が意義あることを期待し、盛況のうちを終了した。

第九回保母の日前夜祭が横浜東急ホテルで十二月五日開催され、会場は早くから若い熱気で明るい華やいだ雰囲気につつまれました。

主催者鈴木会長の挨拶には始まり、本年度保母賞受賞者紹介、県民功労賞受賞者への花束贈呈が行なわれました。

前夜祭には、お忙しい中ご出席の志村甚一県児童福祉課長、三谷光雄児童福祉審議会委員長、そして本会顧問望月正道県社会福祉協議会々長さん方に祝辞をいただき、このほか来賓の方々も多数お迎えでき、会は次第に盛りあがっていきました。

又横浜女子短期大学講師

平井明子氏のピアノ演奏の頃になると参加者一同も昼間のにぎやかな保育環境から一変し、しっとり落ち着いた大人のムードで師走の夜のひとときを、こうして過せる幸せに酔い、時間のたつのも忘れ、

保母の日前夜祭

なごやかなうちにすすみ、若い人々が仕事を通じ、このように集い、日頃あまりふれられないクラシック音楽の鑑賞など心の窓をひらきやすらぎを求め、英気を養いながら語らいの場となったことは大変意義あるもので、明日への活力ともなることでしょう。

帰りの仲間同志の会話に「駅に近くてよかったし友だちとこんなにくつくりおしゃべりができたのも久方ぶり」などささやかれている後姿に何かほのぼのするものを感じました。そして互

いに又の再会を約束しそれぞれの家路に急ぐ姿も印象に残りました。



ブロック研修活発に行なわれる

湘南ブロック

「保護者が 保育所に求めるもの」

六十一年度ブロック研修会では村田安太郎先生をお迎えし横須賀労働会館で「保護者が保育所に求めるもの」の講演を2時間にわたってお話願った。講演内容は広い視野で世界(特に中国)の親と保育所とのかわりから話が始まり、日本での現状を鋭い目で指摘なされ我々一同多いに感銘を受けた次第である。特に日本の現代の母親は以前の考え方、行動とは異なっており「昔はこうだったから」という話では相互理解はむずかしい。しかしながら乳幼児の育成には相互理解は欠かせないので、親に話すべきことは話し又、親の心情を現代の感覚で保育所ではとらえ、

理解を示すようにしなければならぬであろう。ここで問題になるのは、親に話す側の保育所の機能が問題になるとのこと。近年保母層は大変若くなり未婚の人が多く問題が生じた時は、やはり人生経験豊富な主任保母、園長が前面に出て対応していかねば親の信頼を得られない現状であることを十分認識する必要がある。という大変有意義な講演で参加者一同大いに啓蒙させられた。



西湘地区

「これからの保育園」

秋晴れの十月十八日、緑に囲まれた平塚市教育会館を会場に、平塚保育園のメンバーによって、西湘地区の研修会が開かれた。

会場は、土曜日の午後だということに、保母・来賓・園長等百名に近い人々で埋まっていた。

ステージの大きな垂れ幕には「これからの保育園」と書かれており講師は、全国保育協議会調査研究副部長の要職にある東京都の共愛館保育園園長布施英雄先生である。

平塚市の福祉部長や平塚保育園会長の挨拶のあと、緊急ドキュメント「どうなる東京の保育所」(東社協製作)というビデオが上映された。これは、国の措置費負担率が十分の五に低下したことを訴えているものであった。

講演に移ると、高齢化社会が保育所制度を圧迫し、情報化社会は

他施設や制度との繋りを避けえないものとする。又、国庫負担率が低下し入所措置等の事務が団体委任化される中で市町村がどのような対策をとってくるか、措置制度や保育サービス供給の体系はどうなって行くのか、今までの保育サービスでは応じられないものも出てくるし、それには必要に応じた職員配置や能力を身につけることも必須となる。つまるところ、地域住民の価値観を見極めながら自分で乗り切る以外に道はない、というものであった。聞いている者にとつて少なからず目を開かせるものがある研修会であった。



臨教審第三次答申に対する幼稚園の提言(抜粋)

社会の変化と文化の発展に対応する教育の実現を図るため諮問を受け、臨時教育審議会が、この春に第三次答申を提出する。答申に向けて、全日本私立幼稚園連合会から提言が出された。以下、資料としてその要旨を記す。

● 総論

一、教育は誕生の瞬間より開始され、その生涯を通して自ら学ぶ機会を保障される体制が必要である。

二、幼稚園教育は三歳より開始されるが、五歳までは学校教育法第七十七条の示すとおり、個々の子どもの本源的な生命の保存・育成であり、保護、教育を包括した概念としての「保育」という考え方を堅持し、「適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」を目的とし、その教育内容については、教科教育的要素を完全に排すべきである。例えば、文字や数の取り扱いについても、あく

までも一人ひとりの幼児の興味、関心に応じた遊びとして取り上げることとし、一律一斉の指導は行うべきでない。幼稚園は幼児の主體的な生活を中心とし、遊びを通しての総合的な指導を目的とすべきである。

三、幼稚園と保育所の関係においては、幼稚園も保育所も、共に子どもたち一人ひとりの基本的人権をひとしく保障する場である。しかるに、小学校以上の教育がほぼ同一の理念で組み立てられているのに対し、幼児については幼稚園、保育所両者の理念が共通の場で十分検討されていない現状からみて、両者の役割、公費負担の在り方等について方向をさし示すべきであろう。

四、……小学校教育においては……心身の発達の状況からみて、幼稚園と小学校低学年で教育内容の構成の仕方や、指導の方法に大

きな差異がみられることは問題がある。そこで、幼稚園における総合的、生活的な内容をとり入れ再構成する必要がある。又、……文字、数の取り扱いについては、小学校において初めて教科としてとりあげられるからには、まったくの初歩からいぬいな指導を開始することを明示するべきである。

五、幼稚園と小学校の接続については、今後さらに検討し強化されなければならない。特にわれわれの主張する下から積み上げていく教育にあつては非常に重要な課題であり、国、地方公共団体、地域といったすべての段階で、このための組織づくり研究体制づくりが望まれる。

一を図る」

● 各論 (幼稚園と保育所)

どもたち一人ひとりの基本的人権を保障する場であることからすれば幼稚園と保育所とは、保育において共通の機能を持つ。

二、保育経費の公費負担について「保育経費の公費負担を拡充し、公・私、幼・保の保護者負担の格差を是正する。」

三、幼保の一元化について

〔統一された保育理念に基づき、保育および保育制度の在り方について、将来展望を緊急に明らかにする。〕

幼稚園も保育所も共に地域の子どもたち一人ひとりの人格の発達を保障する「同じ営み」に従事しているという意味で幼・保を一元的に捉え、さらに両者の目的・機能が、社会構造の変化と社会的要請によって、類似し同質化しつつある今日、公・私、幼・保の関係者が協力して子どもたち一人ひとりの人間らしい発達を保障するため、保育制度はどうあるべきかを明らかにしていく。 以上

園長研修

日時 十一月十三日(木)

場所 県社協福祉会館 四階

○内容 保育所に求められる役割

講師 県保育会々長 鈴木先生

○内容 乳幼児相談活動の基礎

講師 聖徳学園短期大学教授
船橋市像伸幼稚園長 喜田先生

○内容 新神奈川計画

について

県児童福祉課

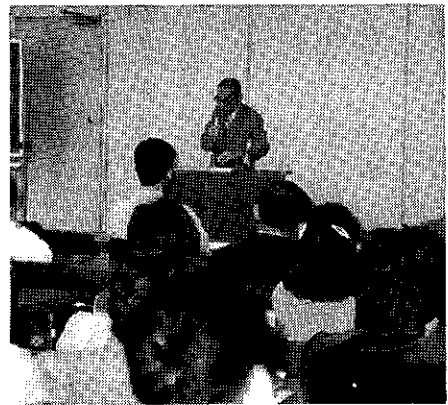
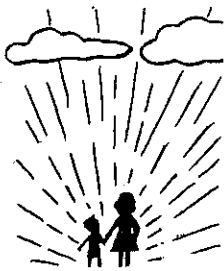
佐野副主幹

研修報告

先づ出席者が多いことに驚いた。空席がなく会場も熱気が感じられ盛大に終る。両講師のユ一モアを交えての話に

は飽きることなく誰一人席をはずす方もなく熱心に研修を受けていた。今一番必要な、保育所に求められる役割、更に相談事業の活動の基礎をわかりやすく、話された。

内容は、ゆれ動く保育行政、最近
は特に家庭の機能が弱体化してい
る中で我々に求められ、更にこれ
からの保育所として生き残るには
その家庭に欠けている機能を助け
地域に開き、個性的に地域化して
いかななくてはならないのではない
か。更に情報の提供、人間交流等
々地域に根ざす保育所として自らを
確立し多くの障害を克服する事だ
と思う。又質の高い保育者が求め
られ保育内容を充実し地域社会の
信頼を高めるよう努力していくべ
きだ。と実に聞きやすいお話でした。
佐野副主幹から新神奈川計画の
説明で、保育所は措置されたこと
も以外に相談事業、地域育児セン
ターを促進し、更に一時保育、母
親講座、交流保育等々推進してい
きたい旨のお話がありました。



主任保母研修

去る十一月十八・十九の両日、
澄みわたる初冬の江の島婦人総合
センターにおいて、県下の主任保
母七十一名を集めた県保育会主催
の宿泊研修会が開催された。

新神奈川計画の「地域育児セン
ター」構想に見られるように、こ
れからの保育所は、地域の育児に
関する核となることが強く期待さ
れている。

これをふまえ、研修の内容は、
講演「保育所に求められる役割」
(県児童福祉課課長代理 大久保稔

氏)・「乳幼児相談事例発表」(富士
見保育園長山本幸子氏・平塚保育
園長猪股 祥氏)さらにこの講演・
発表について「パネルディスカッシ
ョン」(パネラーは上溝保育園長
小川あきの氏ほか)、あわただし
く夕食を済ました後は、講演「乳
幼児相談活動の基礎」(武蔵野短
大教授村田保太郎氏)というもの
であった。

十年以上も前から相談事業を実
施し、多くの実績をあげたり、高
度な内容をもつ相談活動事例は、
これからこの事業に取り組もうと
する大多数の者に溜息をつかせる
ものであった。

又、ロールプレイを交えての夜
遅くまでの講演も、皆が集中し、
その熱気が伝わってくるようであ
った。

翌朝は三班に分かれて、相談活
動についてのグループ討議が活発
に行われ、これから背負ってい
かなければならない事業への意欲が
益々高められていった。

調理員研修

給食問題研究委員会では、調理員の資質の向上を図ることを目的として、体験レポートを募集したところ六十九名の応募があった。そこで一月二十日に、県社協大会議室で開かれた調理員研修会で、そのうちの何点かが発表されたが、発表者持参の、手作りおやつを前にして、熱っぽい討議がなされた。

なお、出席者は百十名を越える盛況であった。以下そのうちの三点を紹介する。

「手作りおやつについて」

平塚保育園 武富 操

子供達の最大の楽しみは、お給食と、おやつです。「今日のお給食はなに?」とか「今日のおやつは?」と決まって聞きに来る子供もいます。

夕方、忙しいお母さんが、子供にスナック菓子を袋ごと持たせて食べさせている姿をよく見かけま

すが、こんな子供達の為に私達の保育園では、手作りおやつを作

すが、こんな子供達の為に私達の保育園では、手作りおやつを作

ました。月令及び発育状態に応じて毎日家庭から園、園から家庭と連絡を

て喜ばれています。特に、月に一度の誕生日には、四季折々、その季節にあったおやつを作ります。四月には草団子（早春、新芽のヨモギを摘み取り茹でて灰汁抜きをし、冷凍庫で保存したものを使います。）梅雨時から暑い夏にはゼラチンや、寒天を使ってフルーツゼリー（缶詰のフルーツを使用します。）や、杏仁豆腐（牛乳麩とフルーツ）秋にはお月見団子。寒い時には、チーズをたっぷりお

せた焼きたてのピザ。お正月にはおしるこ等、その他には野菜をたくさん入れてお好み焼き、ケーキミックスでホットケーキや、ドーナツ。カルシウムを充分とする為に黒砂糖を入れて作るくず餅や、脱脂粉乳で作るクッキーバー。時にはシュークリームや、キャロットケーキなど、初めて作るものも前もって作ってみることもあります。秋の収穫期には子供達が自分

達で植えたトウモロコシ、さつまいも、落花生も食卓を賑わせます。又、私達の保育園では、週に一度位の割合ですが、牛乳で手作りヨーグルトを作っています。これはたいへん好評で、もつと回数を増やしたいと思っております。このヨーグルトに生のオレンジをつぶのまま加えたヨーグルトシェイクも大変おいしいものです。子供達の胃袋を満足させる様、おいしい手作りおやつを頑張っております。作りたいと思っています。

「離乳食について」

太田和保育園 小林美佐

調理師として園の給食に従事して三年、初めは大勢の食事やおやつを失敗せず作る事で精一杯で、一年目は夢中で過ぎました。二年目、これでは進歩がないと給食日誌を作り、各クラスの保母達と、作る側、食べさせる側で連絡を取り合い、好き嫌いせず喜んで食べてくれる給食作りに力を入れてき

ました。月令及び発育状態に応じて毎日家庭から園、園から家庭と連絡を

取り合いながら、その日の食べ具合、からだの調子など細かくチェックし、その子に合った食事作りの計画を立てています。途中入園して来た子供の場合、食べ慣れない物は口にしない上に、好き嫌いの多く、食べさせるのに苦労します。しかし、乳児から入った子は離乳食で色々な食品に慣れさせて行くので、好き嫌いなくよく食べてくれるのを見て離乳食の大切さを痛感致しました。

我が園では、三ヶ月を過ぎるとスープの上ずみ一口から慣らし始めますが、まず家庭で実行し、異常のないのを確かめてから実施して行きます。野菜をゆっくり煮込み調味料は薄い塩味で三段階に作ります。まずスープのならしの子にペースト状にして初期に、動物性たんぱく質を加え、みじん切りして中期、主食もおもゆ、三分、

五分、かた目のおかゆと作り、後期になるとおかゆに離乳食の外に普通食の中で、食べられるメニューも取り入れて行きます。中期に入ると乳製品、動物たんぱく質も取り入れ、くだものや、トマトなども加えます。

又、食品一つ一つの味も教えて行きたいので、おじや風でなく主食、副食、スープと別々に作り食品の持ち味がわかるように調理します。食べさせる時、保育が、「はい/トマトよ。」「お魚おいしいよ。」と一つづつ語りかけながら食べさせておきます。動物性たんぱく質はアレルギーの心配がありますので、慎重に家庭と連絡を取りながら少しづつ魚から、鶏挽肉、卵、レバー、そして豚肉とメニューを広げて食べさせていきます。後期になると一人でスプーンをもって食べたがりまし、おいしければ催促もします。小さくても味には厳しく濃くても薄すぎてもすぐに感じ取られてしまいます。

こうして成長し、上のクラスに入ると全員好き嫌いのない食欲旺盛で元気な子になって行きます。園のモットーである「食欲は意欲につながる」と言う事で、食事の大切さをかみしめて調理し、家庭にも大いに呼びかけています。

「私の生きがい」

ベルガーデン保育園 梶山ミネ

私の生きがいは、働くということとです。社会へ出て人と人とのふれ合いの中でいかに人間関係が大切か、人生には苦しい事悲しい事それぞれ歩む道はさまざまです。この職場で毎日働くことが出来る

ことが、私にとって一番の生きがいだと思えます。食べることは人間にとって命の源でもあり最高の喜びとでもいえましよう。幸い健康に恵まれ主婦として職業を持つ私としては働けるということをつくづく幸福だと痛感しております。

私の園では一二〇名定員、市の中央商店街の中に建設された近代

的な建物です。丘の上には白い建物かひとときわめだち、まわりには緑も残っていて環境は本当に素晴らしいです。調理室は広々と設備も良く風通しも上々で窓からの眺めは最高です。「おはようございます」「ごくろうさまです」「いつてらっしゃい」すがすがしく頼もしい保育の声、元気に登園して来る園児の笑顔はいきいきと輝き、

友達同士の楽しい会話が見うけられ園生活を十分満喫しているようです。可愛い純心な子供達にはつらつと熱心な先生方が一体となつて日々保育に関わっている姿は、本当に素晴らしいものです。八時三〇分朝の打ち合わせ、それから調理の仕事に取り組み。一日の仕事はまず手順から。そしてお互いの気持ちが一休となつて協力しあうこと、手早く動かす包丁の手さばきの中にも目はいくつにも輝いているでしょう。時計を気にしながら。

今は社会的にも恵まれ何不自由



のない生活の中で逆に好き嫌いの多いのが現状です。働くお母さんの中には、手のかからない食べ物例えば、コロッケ、ハンバーグ、冷凍食品、インスタント食品等、好きな食べ物に偏っているようです。私は、園でこそ出来るかぎり手をかけた手作り料理、煮物、手作りおやつ等、バラエティーにとんだ献立を希望しています。出来れば時期のお魚料理など幼児期に何でも食べられるように育てたいと願っています。作る喜び、食事時の笑顔、「おいしかったよ!」「また作ってね。」なんて可愛い言葉でしょう……。その言葉こそ私の生きがいです。

昭和六十一年度関東ブロック

保育事業連絡協議会開催

暖冬といわれた一月二十七・八の両日、関東ブロックに属する十三都県市の主管課・社協・保育部会及び保母部会の代表約八十名が出席し、湯本富士屋ホテルにて、当県主催の保育事業連絡協議会が開催された。

この会は、当面する保育課題に對し、関東ブロック保育事業関係者が一堂に會し、日頃の実践活動の情報交換を行うと共に、今後の具体的対応について協議し、保育事業の進展を図ることを目的とし毎年開かれているものである。

初日は、四つの職域別會議、二日目は、全体會議という日程であった。そこでの協議題を示すと、「保育部会」は①団体委任事務化に伴う各県の対応策②就学前教育における保・幼・小の連携③全保協「制度研究委員会報告」(三つ

の疑問点)、「主管課部会」は①団体委任事務化に伴う各県の市町村に對する指導状況②保育所機能強化推進事業の具体策③民間保育所整備にかかる単独助成制度他(「社協部会」は、都県市社協保育部会と社協の外にある保育関係組織とのかかわり他、「保母部会」は①保

母会の勉強会の活性化②これから保育所の保母のあり方③保育所における地域活動の事例他。いづれも、その検討や対応が緊急を要する重大事であり、保育部会では、地方負担の増大に伴い深刻な事態も生じているとの報告も多くそれぞれの部会で真剣且つ活発な討議が繰り広げられた。

翌日の全体會議では、益々困難化する保育事業のいっそうの進展をはかる為、関東ブロックという身近な地域にある者が職域を越えて集るこの価値ある協議会を、更に意義深いものにしていくため、今後の運営体制を検討していこうとの提案がなされ閉會となった。

おめでとうございませう

▽昭和六十一年社会福祉事業関係者で大臣表彰以上の榮譽を受けた方々

勲五等瑞宝章

ふたば愛子園長 故本多郁三

厚生大臣表彰

星ヶ丘二葉園々長 宮下 操

五右衛門保育園主任保母 日高京子

▽二冥福をお祈りいたします

○安部龍巖氏(前みどりの家愛児園々長)

昭和六十一年七月十七日逝去

○本多郁三氏(前ふたば愛子園々長)

昭和六十一年九月七日逝去

○小池妙子氏(前双葉保育園々長)

昭和六十一年一月八日逝去



最近、私達の周囲を見わたしてみても生活環境など年々酷くなる一方です。こうした中、子育ての意識も変わり新たな問題が発生しております。お互に相手の立場を念頭におき暖かい心で専門家集団として、子ども達のよりよい育ちにより一層がんばりましょう。

(宮田)

人は心の中にある種の先入観がある。その想いによって物事がゆがんで受けとるものである。いい人だと思っている人の言葉は全てよく聞えるし、反対なら例え正しい事を言っても、何か信用出来ないように思える。こうならず正しく理解したい。

(登原)

「保育かながわ」はやつと冬眠から醒めて第二十八号を発行できた。二度と冬眠しないよう努力したい。今保育所が抱える問題が多く、増ページとなった。(編集子)